
MMM放送局！

翡翠 煉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

MMM放送局！

【Nコード】

N2157U

【作者名】

翡翠 煉

【あらすじ】

MMMラジオ。

それはマリオ。マルス。ミュウツの3人の頭文字からとってできたラジオである・・・

そして、それは昔終わった・・・

しかし・・・

今日！ 今から！

MMMラジオを！

MMM放送局と名前を改め復活する！

第一回 復活！（前書き）

基本、このコーナーは、

レギュラー（2名）＋サブレギュラー（2名）＋ゲスト（2名）の
6人で構成されています。

サブレギュラーは、ある条件を満たした人の中から何人がランダム
で2名選ばれます。

ゲストは・・・イベントで目立った人とかに・・・

7月29日 規約改正のためコーナーをひとつ消去しました。すい
ません・・・

第一回 復活！

マリオ「MMMラジオ遂に復活！」

マルス「マリオ、ラジオじゃなくて放送局だよ！」

美琴「毎回こんなノリなの・・・？」

魔理沙「MMM放送局、始まるぜ！」

4人「「「MMM放送局！」」「」」

マルス「と、まあ、始めました、MMM放送局！」

マリオ「ほんと、2年くらい前だよな・・・」

マルス「そうだね」

美琴「わたしたちは・・・」

魔理沙「初めて出るからな・・・」

マリオ「まあ、近くでパソコンいじってるやつはMMMラジオのときは、魔理沙はともかく、美琴は知らなかったからな」

マルス「で、ちょっと気になってるんだけど・・・ミyuウツーは？」

魔理沙「それはナルシストだな・・・」

マルス「ともかく、リニューアルしたこのMMM放送局の説明をするよ」

マリオ「そうだな。まず、次回以降の放送は、俺、マルスの二人、サブレギュラー二人。今回は魔理沙と美琴だな。そしてゲスト2人の6人で構成される」

マルス「ラジオの時はレギュラーとゲストで4人でしたよね・・・」

美琴「それで、ラジオのときはどんな話を・・・」

マリオ「小説でなんかあったことを俺たちで話す感じだったな。ちなみに最終回は逃走中のことだったな」

美琴 魔理沙「え!!」

マルス「たしかリンクが逃げ切ったよね」

煉「たしか・・・そうだったな」

魔理沙「あの裏切り者がか!」

マリオ「ああ、そのときは作者も気に入ってたし、遊園地の裏切り者でも、ちよつと後悔してたぞ。作者が」

美琴「作者かい!」

煉「俺が後悔した。あ、もうすぐ1000文字だから次行つて」

魔理沙「で、コーナーは主に4つ」

マリオ「まずはゲスト登場するが、これはコーナーとはちょっと違うな」

美琴「まあ、そうね。まず最初のコーナーは、gdgdトーク

まあ、gdgdと話すだけね」

マルス「次は、SS制作会。リスナーにお題を募集して一人ひとりつつせりふをつなげて決められた話をつくります」

マリオ「4人で練習する許可はおいてるから、やってみるか」

煉「お題は、桃太郎です」

マリオ「桃太郎を4行でか・・・」

美琴「しかも相談なしで・・・」

考え中

ここでCM マリオ「銃王さんのパクったな！」

ハヤテ「映画版ハヤテのごとく、8月28日公開！」

マリオ「CMみじかつ！」

美琴「で、本当は順番はくじ決めるんだけど、今回は相談で決めました」

マルス「じゃあ僕から、『昔々あるところに桃太郎がいました』」

マリオ「『桃から桃太郎が出てきました』……この時点で矛盾してるじゃねーか」

美琴「『桃太郎は単身で鬼が島へ行きました』」

魔理沙「『鬼が島は消し飛び、桃太郎は平和に過ごしました。めでたしめでたし』」

煉「次回からテンプレ入れときます」

マリオ「今のはなかったな」

美琴「たしかに……」

マルス「次のコーナーはミニミニバトル！ いろいろなゲームでポイントを取り合います。ポイントは次回お伝えします」

4人「『『『『それでは、また次回！』』』」

第一回 復活！（後書き）

まあ、こんな感じでやって行きたいと思います。

第二回 宣伝? じゃあそれ賞品にしようか(前書き)

今回の出演者

レギュラー

マリオ

マルス

サブレギュラー

初音ミク

御坂美琴

ゲスト

綾崎ハヤテ

神楽坂明日菜

第二回 宣伝？　じゃあそれ賞品にしようか

マリオ「まさか作者がこんなにやる気がなかったとはな」

マルス「また予定を変更したからね・・・」

ミク「まあ、しかたないでしょ・・・」

美琴「MMMラジオ第二回」

4人「・・・スタート！」「・・・」

この番組の提供は、騒動さえも平和となる　キノコ王国の提供でお送りします。

マリオ「てなわけで始まりました。MMMラジオ！」

マルス「第二回となりましたが、前回とは違い今回はゲストも呼んでおります」

ミク「それでは、ゲストさんに早速きてもらいますね」

美琴「それでは、ゲストのお二人、どうぞ！」

ハヤテ「あ、こんにちは・・・」

明日菜「こんにちはー」

マリオ「と、いうわけで今回のゲストはハヤテさんと明日菜さんです」

マルス「それでは、何かあればどうぞ。いつ次のコーナー行くかはわかりませんので」

ハヤテ「はい。では8月・「はいストーップ」なんですか」

煉「いやね・・・俺に対する嫌がらせか？ 自慢か!？」

明日菜「・・・は？」

ハヤテ「え？」

マリオ「こいつ、映画見てないからな・・・」

2人「ああ、なるほど」

煉「と、いうわけで、宣伝したければ最後のゲームで勝て!」

明日菜「・・・そうね。やってやるじゃないの」

ハヤテ「言いましたね。本気でいかせてもらいますよ！」

マリオ「それでは、次のコーナーにいきます」

2人「ほんとにもういった！」

美琴「次のコーナーはSS制作会。このコーナーは、6人で無造作に順番を決め、まず1番目の人がお題で話を書き、次の人だけに見せる。それを繰り返し、最後に6人で順番に読みます」

ミク「それでは、順番を決めましょう」

マリオ「えっと・・・順番は・・・」

煉「このトランプ使って」

マルス「あ、はい・・・」

マリオ「何で俺じゃなくてマルスに渡した!」

煉「だって一番近いじゃんか」

マリオ「いわれて見れば・・・」

席 セット内

セット外

美琴 ミク マリオ マルス

煉

ハヤテ

明日菜

フたち

スタッ

< r u b y > < r b >

6人 < / r b > < r p > (< / r p > < r t > こんなセットだっ
ただ・・・ < / r t > < r p > (< / r p > < / r u b y >

マリオ「そらじゃあ・・・トランプ分けますか」

マルス「じゃあ、皆さんぐづぐづ」

順番

1 美琴

2 マリオ

3 ミク

4 ハヤテ

5 明日菜

6 マルス

マリオ「それでは、今回のお題ですが・・・」

美琴「お題は、『ぎりぎりセフセフなこと』です」

マルス「・・・大丈夫？」

ミク「何とかなるんじゃないですか？」

相談中

美琴「じゃあこんなかんじで・・・」

マリオ「おいおい・・・こんなのありかよ・・・」

明日菜「そんなの分からないわよ！」

マルス「これで終わりだね」

相談終了

マリオ「それでは、行くぞ！」

美琴「昨日。ストーカーにつけられてることが分かった」

マリオ「だから家まで逃げた」

ミク「しかし、追いつかれて気絶させられた」

ハヤテ「気がついたら暗かった」

明日菜「だから私は警察に電話した」

マルス「警察は家にいた強盗を捕まえた」

6人「・・・」

マリオ「マルスのせいで・・・」

マルス「え、やっぱこっちが悪い？」

マリオ「あと・・・カルピスフロートさん。すいませんでした！」

CM

魔法先生ネギま&ハヤテのごとく

まさか！？ の同時上映！

キノコ城内のキノコショップ

さまざまなものが売っています。

マリオ「お待たせしました！ ついに、ミニミニバトルです！」

マルス「ルールは、最初100ポイントを持ち、ゲームを行いポイントを取り合います。そしていずれ行う最終決戦のゲーム終了時にポイントが1位だった人が優勝です」

ハヤテ「宣伝できるように頑張ろう・・・」

煉「あ、ここで、罰ゲームをお知らせします」

ミク「あ、突っ込むところそこ?」

煉「ま、みんな頑張れ。あ、さっきの罰ゲームの分けたように、ゲスト同士、サブレギュラー同士でチームを組んでもらいます。で、今回のゲームを紹介してください!」

マリオ「今回のゲームは・・・ときどきサイコロです」

ルール説明

順番に複数のサイコロを振ります。

同じ数字が出たらアウトです。

最後まで残った人の勝ちです。

順番は、

マリオ

マルス

サブレギュラー

ゲスト

の順です。

ターン1 2個同時

マリオ「まずは俺か・・・」

コロッ

3 6

マリオ「助かった・・・」

マルス「次は僕か・・・」

コロッ

1 1

マルス「ああ！」

マルス、リタイア

ミク「じゃあ・・・私が・・・」

コロッ

1 3

ミク「よかった・・・」

明日菜「じゃあ行っちゃおう!」

コロッ

2 5

明日菜「よし!」

ターン2 3個同時

マリオ「うわ・・・3つ同時とか・・・」

コロッ

2 5 6

マリオ「危ねえ・・・」

美琴「次は私ね」

コロッ

3 3 5

美琴「あ……ごめん……」

サブレギュラー リタイア

ハヤテ「……大丈夫だろうか……」

コロッ

1 6 6

ハヤテ「ほら……」

ゲスト リタイア

煉「マリオの勝ち！ それではポイントを分けるよ！」

ゲーム順位 名前 ポイント

1位 マリオ 100 ↓ 110

2位 ゲスト 100 ↓ 100

3位 Sレギュラー 100 ↓ 100

4位 マルス 100 ↓ 90

マルス「大丈夫かな・・・」

ハヤテ「あー・・・2位か・・・」

ミク「よかった・・・ポイント減らなくて・・・」

マリオ「というわけでありがとうございました。今回のゲストは、綾崎ハヤテさんと神楽坂明日菜さんでした」

マルス「最後は二人でしめて下さい」

2人「『映画』。魔法先生ネギま&文手のごとく絶賛公開中！」

4人「『・・・』それでは、また次回！」

第二回 宣伝？ じゃあそれ賞品にしようか（後書き）

おまけ ゲーム延長戦

マリオ「4つでもいけるんじゃない？」

5人「「「「「ないでしょ・・・」「」「」「」

コロッ

1 3 5 6

6人「「「「「「・・・」「」「」「」

マリオ「さすがにないと思ってた」

例のようにサイコロ振っています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2157u/>

MMM放送局！

2011年10月8日13時45分発行